

平成29年度 燧灘カタクチイワシ卵稚仔調査

(第10回 8月下旬分)

香川県水産試験場 環境資源部門 (藤田)
TEL 087-843-6511/ FAX 087-841-8133

○カタクチイワシ卵の出現状況

卵の出現数は前年よりやや多く、平年と同程度であった。

前年	平成28年8月17日	(17点の平均)	7.0	個/m ³	
前回	平成29年8月1日	(7点の平均)	105.5	個/m ³	
今回	平成29年8月17日	(17点の平均)	17.1	個/m ³	
			※8月下旬の平年値	14.2	個/m ³

○カタクチイワシ仔魚の出現状況

仔魚の出現数は前年、平年より少なかった。

前年	平成28年8月17日	(17点の平均)	2.3	尾/m ³	
前回	平成29年8月1日	(7点の平均)	44.3	尾/m ³	
今回	平成29年8月17日	(17点の平均)	0.3	尾/m ³	
			※8月下旬の平年値	4.0	尾/m ³

○プランクトン調査

プランクトン量では、夜光虫、カイアシ類及びミジンコ類(ペニリア、エバドネ)が多かった。

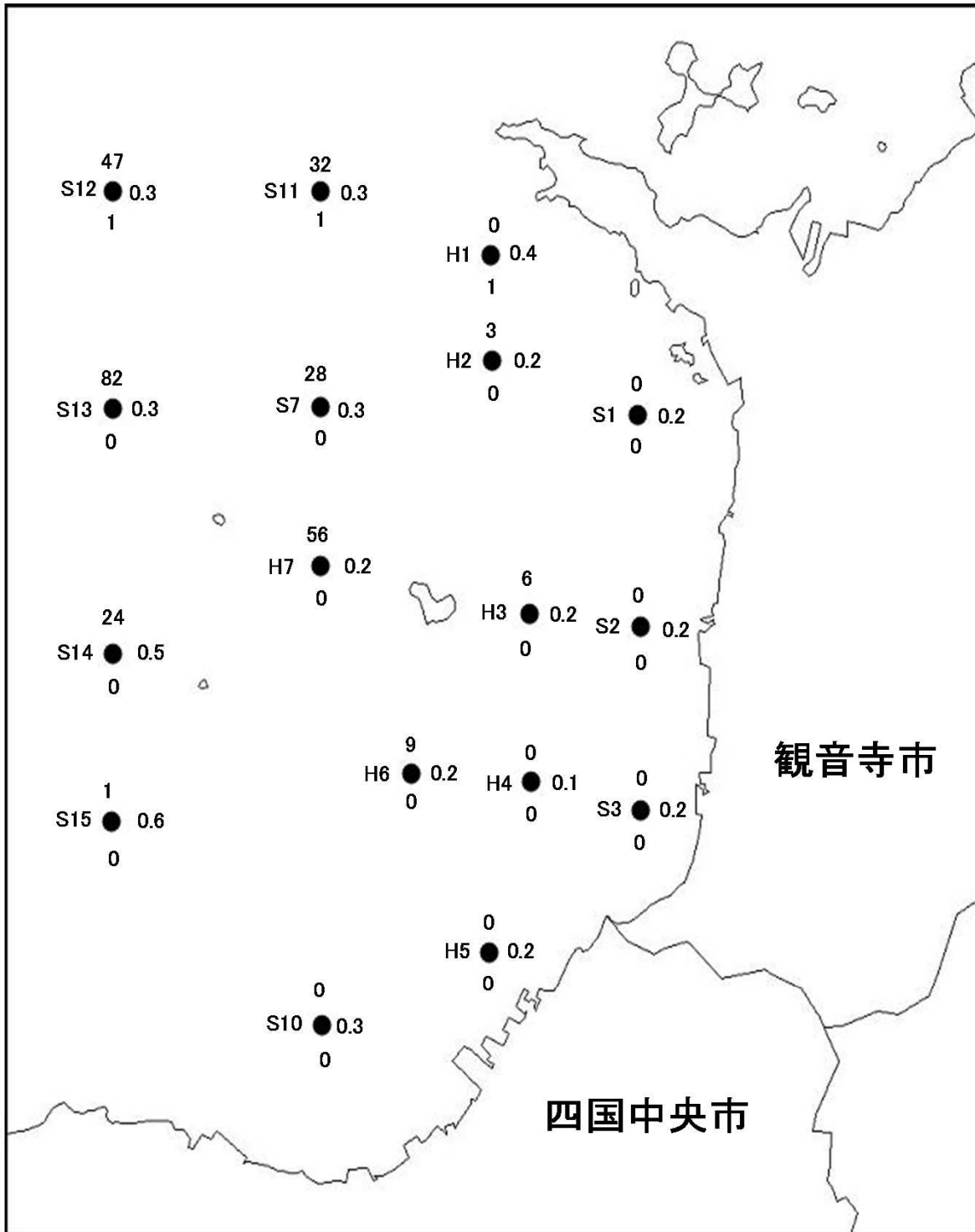
カタクチイワシの餌となるカイアシ類量は、平年よりやや少なかった。

○クラゲ調査

オワンクラゲ類の出現数が前年より多かった。

次回の調査は9月4日(月)の浅海定線調査に合わせて実施予定

カタクチイワシ卵稚仔採集状況(2017/8/17)



●の上側がカタクチイワシ卵数/m³を
下側がカタクチイワシ稚仔数/m³を、
右側がカイアシ類量(ml/m³)を示す。

※カイアシ類量は、プランクトン採集量

(0.335mm以上)に占めるカイアシ類のおおよその割合から算出した概算値。

※卵稚仔数は小数点以下第一位を四捨五入した値。

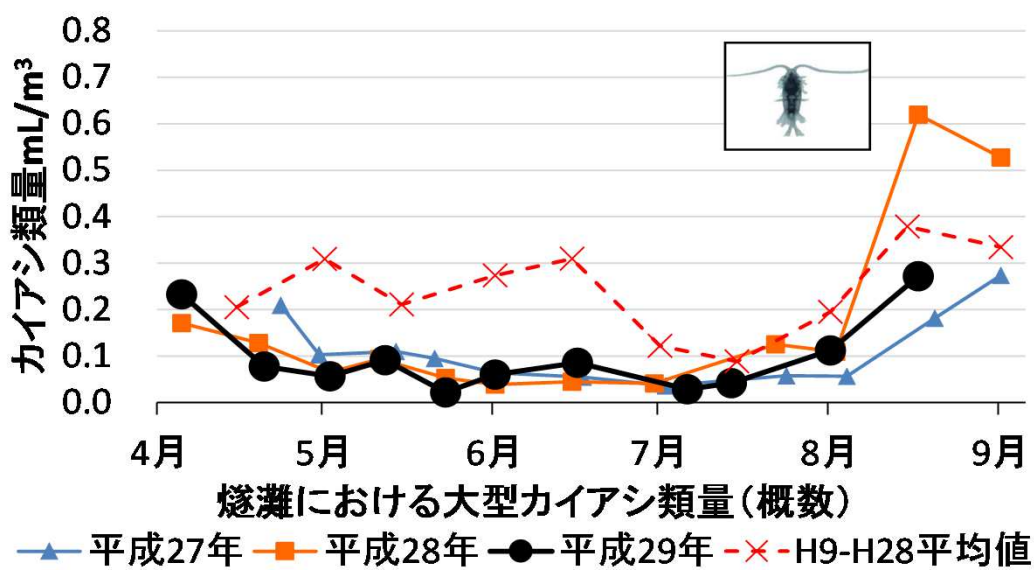
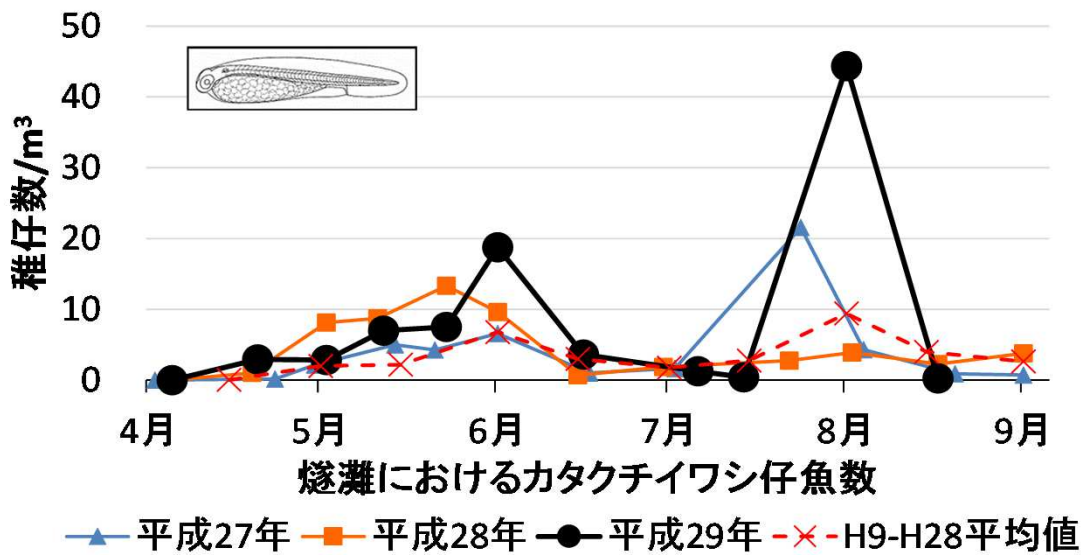
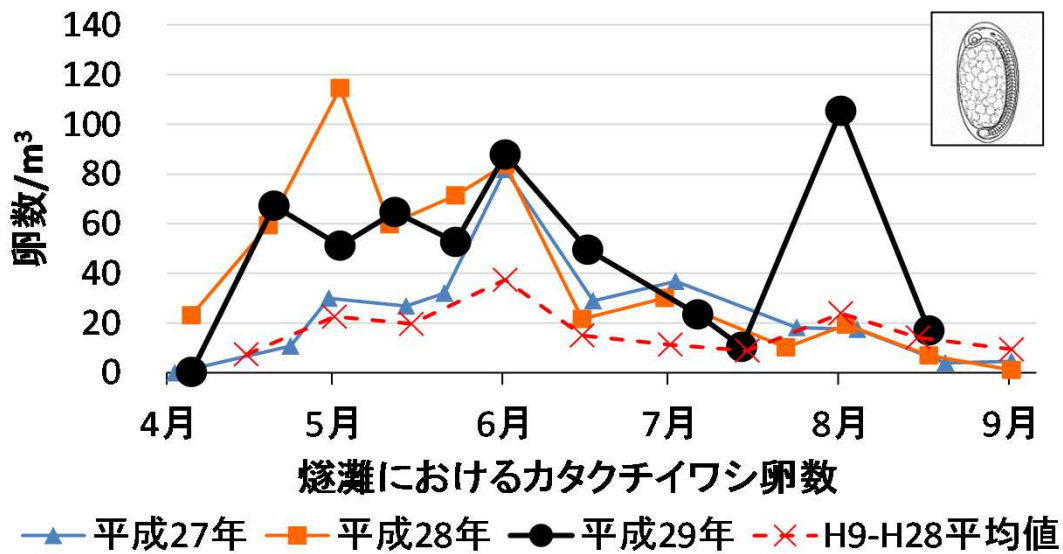
21 ← 卵数
凡例 ● 0.6 ← カイアシ類量
5 ← 稚仔数

平成29年度燧灘カタクチイワシ卵稚仔調査(10回目)

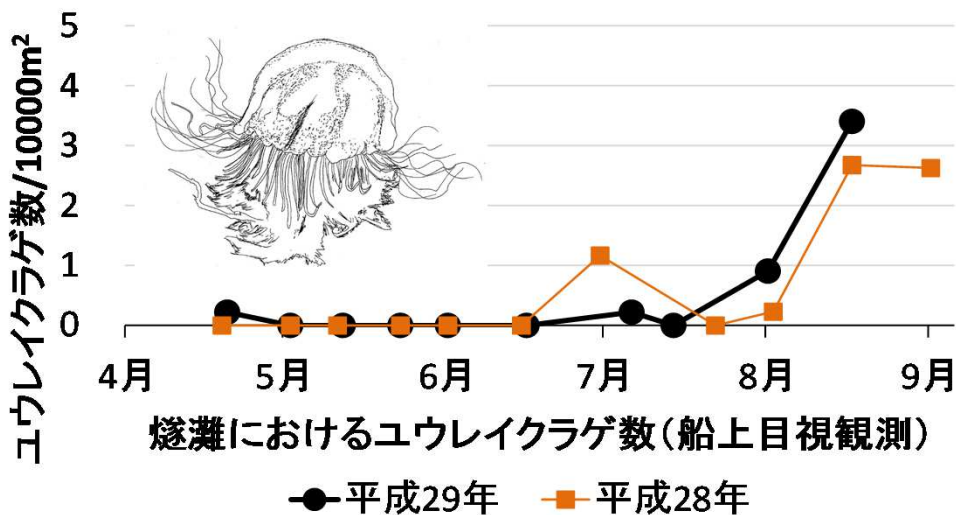
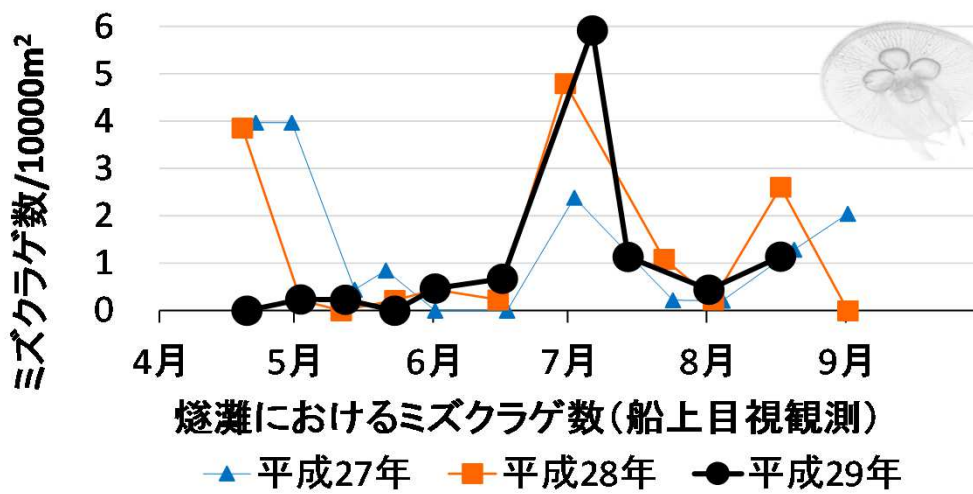
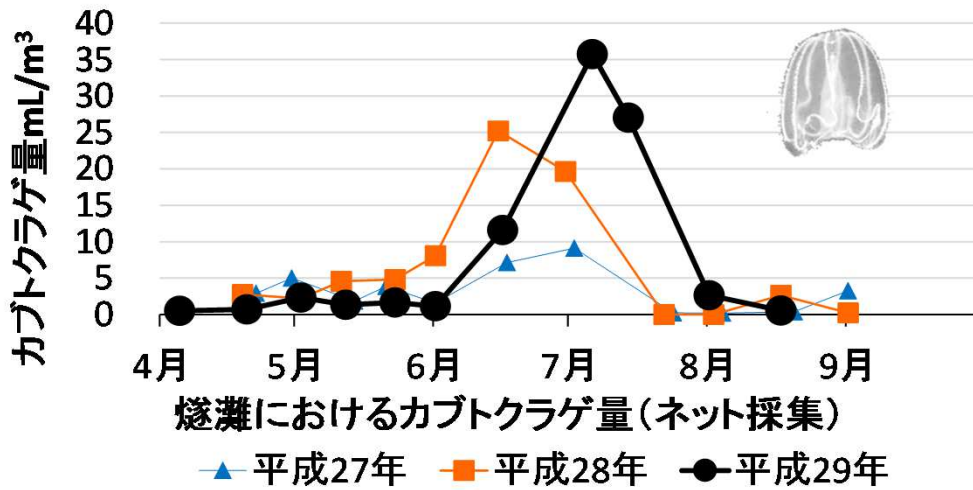
調査日: 2017/8/17

S T	曳網水深 (m)	表層水温 (°C)	カタクチ卵	マイワシ卵	その他卵	カタクチ稚仔	マイワシ稚仔	その他稚仔
H1	20	28.2	0	0	1	1	0	3
H2	20	28.9	3	0	0	0	0	0
S1	20	29.4	0	0	0	0	0	2
S2	20	30.6	0	0	0	0	0	1
H3	20	30.0	6	0	0	0	0	1
S3	15	30.4	0	0	0	0	0	1
H4	20	29.6	0	0	0	0	0	0
H5	20	30.1	0	0	0	0	0	1
S10	20	29.8	0	0	1	0	0	1
H6	20	28.7	9	0	0	0	0	1
H7	20	28.3	56	0	1	0	0	0
S7	20	28.4	28	0	0	0	0	0
S11	20	27.4	32	0	4	1	0	0
S12	20	27.4	47	0	1	1	0	0
S13	20	27.8	82	0	2	0	0	0
S14	20	28.0	24	0	2	0	0	10
S15	20	28.0	1	0	2	0	0	2
7点平均		29.1	11	0	0	0	0	1
平均		28.9	17	0	1	0	0	1

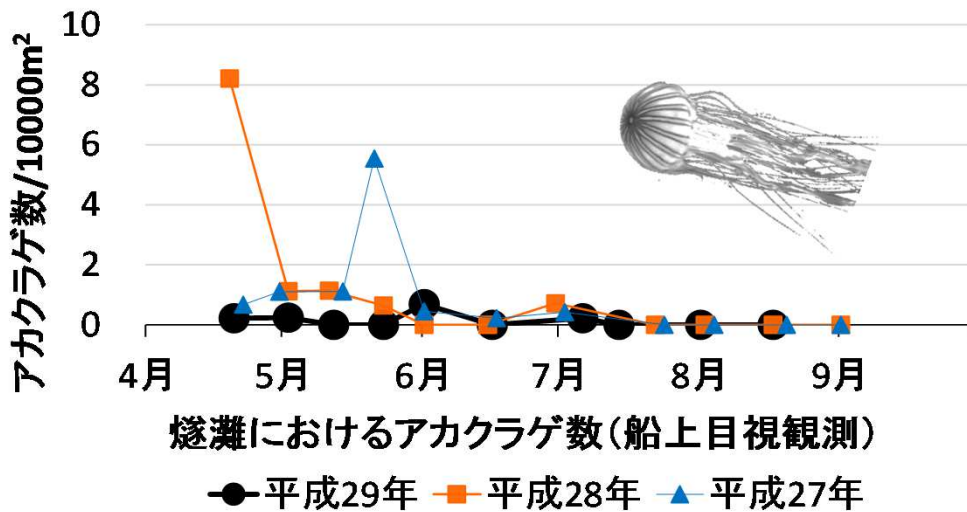
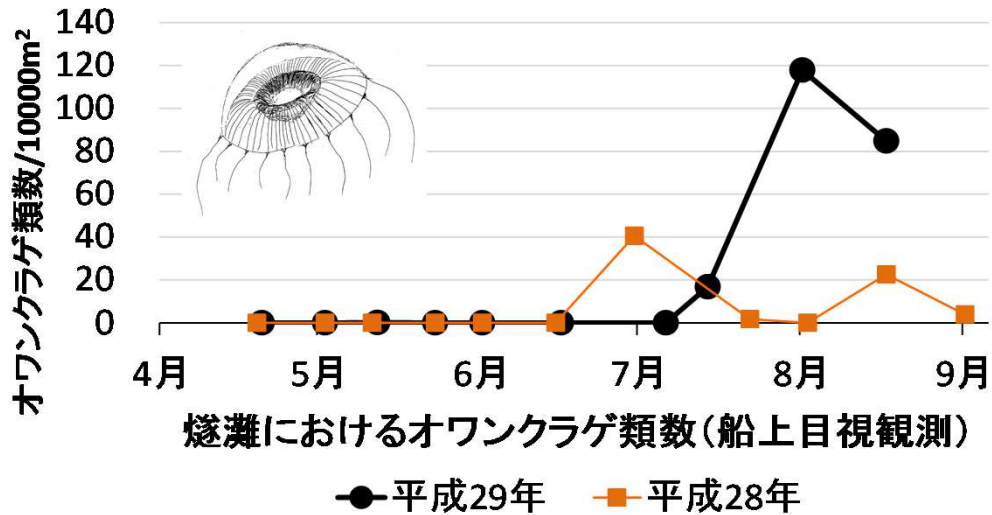
※7点平均は浅海定線調査を行っているH1~H7の平均 ※採集数はm³当たりの数



※カイアシ類量は、プランクトン採集量(沈殿量)に占めるカイアシ類のおおよその割合から算出しています。餌料環境の目安としてご参照ください。



※カブトクラゲは丸特Bネットによる全定点の平均採集数。その他はH1～H7の7点における平均船上観測数(船速平均7ノットで3分間航走する間に、船側両舷5mで視認できるクラゲの数)。クラゲ量の目安としてご参照ください。
 ※この報告の情報により不利益等が発生した場合において水産試験場は何ら責任は負いません。



※H1～H7の7点における平均船上観測数(船速平均7ノットで3分間航走する間に、船側両舷5mで視認できるクラゲの数)。クラゲ量の目安としてご参照ください。

※この報告の情報により不利益等が発生した場合において水産試験場は何ら責任を負いません。